

団体ニュース

日本塗装機械工業会 (CEMA) 会長となって

日本塗装機械工業会会長・木下真生氏

(ランズバーグ・インダストリー代表取締役)

暑中お見舞い申し上げます。今年がどのような夏となるのか、この原稿を書いている今の時点で予測することは難しいのですが、願わくは災害の無い、たとえ暑くても平穏な夏となることを願っています。

さて、このたび日本塗装機械工業会 (CEMA: Coating Equipment Manufacturers Association, Japan) の会長職を仰せつかり、いろいろ逡巡はありましたが1期2年という期限付きで、約15年間お世話になったこの業界に少しでもご恩返しができればという気持ちで引き受けさせていただくことになりました。

36年の歴史と伝統を持つこのCEMAの会長として一体何ができるのか、とにかく先輩諸兄また会員諸氏のお力とご協力のもとに何かお役にたてること、またこの先のCEMAの歩みに少しでもプラスになることをとを考えてやっていく所存であります。どうか関係諸団体の皆様方のお力添えもよろしくお願い申し上げます。

CEMAという団体は、考えようあるいは見方によっては非常にユニークな団体ではないかと思っています。どうということかと簡単に申しますと、要はこの団体にはそれぞれの団体の性格を特徴づけるような“範囲決め”的なものが無く、いわば“塗装”という大きな冠を戴いている団体ではないのかということです。

つまり他の様々な団体では必ずその団体が結束するにあたってのキーワ

ドが見受けられます。

当然といえば当然ですが、例えば大きな団体である日本塗料工業会 (日塗工) さんは、260ほどの会社が“塗料”というキーワードのもとに結束しておりますし、日本塗装工業会 (日塗装) さんは2,500の会社を束ねておられ、そのキーワードは“建築塗装”です。

またCEMAと非常に近い関係にあります日本工業塗装協同組合連合会 (工塗連) さんは“金属塗装”をキーワードにしての団体です。さらにCEMA前会長の日本パーカライジング里見社長が今回会長になられた表面技術協会は、正に表面処理技術を多岐にわたって研究する一種の学術団体であり多くの大学の先生方がいろいろなテーマを持って参加されています。

また日本パウダーコーティング協同組合 (パウダー協) さんは、全くその通りの粉体塗装関連での会社の集まりで約90社が名を連ね常に相互の情報交換を行っておられます。

その中でCEMAのキーワードを敢えて言うならば“塗装”です。英語ではFinishingまたはCoatingでしょう。またCEMAの“E”はEquipmentであり、これも単に“機器”というだけでなくもっと広い意味で捉えられ、例えば装置、設備なども含まれています。今までCEMAはどちらかというところ小さな所帯でごんまりと頑張ってきました。しかしその会員の内容を見ると正に塗料メーカー、塗料原料メーカー、供給商社、塗装機器メーカー、

化学薬品、販売店 (とくに全国的に塗料、設備など扱う)、システムエンジニアリング、システム施工などと、驚くほど多岐に亘る会社が“塗装”をキーワードに会員として集い交流を図ってきています。

私はこれぞCEMAが持っている他団体には無い特徴と捉え、幅広く、それこそ物造りだけに限らず、またこだわらず、“塗装”に関連する仕事をされている多くの会社の参加を仰ぎ交流を図っていける団体となって欲しいと思っております。

既にCEMAの正会員のみならず賛助会員、また新たに設定されたNET会員など、参加の枠や会費などのハードルを全面的に見直し、広く会員の参加を募り始めております。早くも15社あまりの参加表明をいただき最終的には50社を目標に、現会員の皆様方のご協力を仰ぎつつ増強を成し遂げていきたいと思っています。

既にCEMAの正会員のみならず賛助会員、また新たに設定されたNET会員など、参加の枠や会費などのハードルを全面的に見直し、広く会員の参加を募り始めております。早くも15社あまりの参加表明をいただき最終的には50社を目標に、現会員の皆様方のご協力を仰ぎつつ増強を成し遂げていきたいと思っています。

塗装 (Finishing, Coating) という大きな旗の下に、様々な会社のご参加をいただきつつ幅広い活動を展開していけたらと思っております。なにとぞ関係諸団体様のご支援、ご協力をお願い申し上げます。暑い夏を乗り切って、さわやかな季節をさわやかに迎えたいものです。(寄稿)

